

5月16日に沖縄地方と奄美地方が梅雨入りしました。平年よりも1週間ほど遅い梅雨入りです。いよいよ長雨の季節が到来しました。

九州南部地方では5月31日ごろ、九州北部地方は6月5日ごろが梅雨入りの平年日です。4月14日に起きた平成28年熊本地震の被災地でも今後雨のシーズンを迎えるため、土砂災害などより一層の警戒が必要です。特に梅雨の時期は西日本で雨量が多くなる傾向があります。熊本では、6月と7月の降水量の合計は平年800ミリ近くで、年間の降水量の約4割にあたります。下記のグラフは熊本の梅雨期間の降水量(平年)を示していますが、6月下旬が特に降水量が多くなっています。

昨年は6月から7月にかけて、日本付近に停滞する梅雨前線の活動が活発化し、この間に台風も接近、上陸をして、各地で大雨となりました。九州南部・奄美地方の多い所で総降水量が2000ミリを超え、熊本でも約1000ミリの雨が降りました。気象庁発表の長期予報によると、6月と7月の降水量は平年並みか多い予想です。被災地を含め、大雨に注意が必要です。



の降水量は平年並みか多い予想です。被災地を含め、大雨に注意が必要です。

日本気象協会
若宮 秀樹

特別顧問	丹羽 晟 (元理事長、日本空港ビルデング顧問) 丸山 博 (元国土交通審議官) 本保 芳明 (初代観光庁長官)
理事長	大島 慎子 (筑波学院大学学長)
副理事長	岡村 進 (元小田急トラベル社長) 横山 善太 (元日本航空副社長) 須田 寛 (東海旅客鉄道相談役) 加納 隆 (元朝日新聞経済部記者)
事務局長	杉 行夫 (理事) 事務局長 堤 りり (理事)
支部長	片山 文彦 (新宿) 魚住 隆彰 (北陸) 長尾 亜夫 (九州) 須田 寛 (中部) 岩田 弘三 (神戸) 梅原 利之 (四国)

団体会員	株式会社アルピオン 医療法人社団同友会 一般財団法人NHKインターナショナル 株式会社えんれいしゃ 小田急電鉄株式会社 関西電力株式会社 九州旅客鉄道株式会社 社団法人くらしのリサーチセンター 株式会社グリーンキャブ 株式会社耕人舎 株式会社サマンサタバサジャパンリミテッド 三普旅行社有限公司 四国旅客鉄道株式会社 新菱冷熱工業株式会社 住友電設株式会社 セントラルリーディングシステム株式会社 大成建設株式会社 大成設備株式会社 大成有楽不動産株式会社 株式会社丹青社 第一交通産業株式会社 株式会社タイエーコンサルタンツ 中国電力株式会社 中部(東海・北陸・信州)広域観光推進協議会 東海旅客鉄道株式会社 東急建設株式会社 東京急行電鉄株式会社 財団法人東京観光財団 西日本鉄道株式会社 西日本旅客鉄道株式会社 公益社団法人日本観光振興協会中部支部 日本空港ビルデング株式会社 専門学校日本ホテルスクール 羽田旅客サービス株式会社 株式会社パロックジャパンリミテッド 広島電鉄株式会社 福岡空港ビルディング株式会社 北海道空港株式会社 株式会社ホテル小田急 ホテルメトロポリタン マイナミホールディングス株式会社 株式会社まるまんフィオーレ 三菱電機株式会社 横浜ビル建材株式会社
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

特定非営利活動法人「NPO」

JAPAN NOW 観光情報協会

東京都新宿区西新宿 2-7-1
小田急第一生命ビル5F5 〒160-0023
電話 03(5989)0902
FAX 03(5989)0903
E-mail info@japannow.org
HP www.japannow.org/

発行人: 大島 慎子 (JN協会理事長)
編集長: 北村 嵩 (JN協会理事)
発行部数: 3,000部
主な配布先: 会員、中央官庁、地方自治体、民間企業、マスコミなど

編集後記

ドイツ2700万人、イギリス2800万人、マレーシア2450万人、メキシコ2300万人、香港2000万人。少し古いのが2010年の外国人旅行者受入数である。ところが国際旅行収入は、G34億米ドル、Eg30億米ドル、Ma16億米ドル、MX11.5億米ドル、HK16.5億米ドルと受入れ外客数と比べて大きな開きがある。勿論その国の物価水準や為替相場によって変動するが、受入数が多くても観光収入は少なく、数の割には観光産業への貢献が少ない国もある。ちなみにこの年、日本は860万人、10億米ドルで、同規模のスイス860万人14億米ドルに比べて収入は少ない▼政府は「2020年に訪日外国人観光客2000万人」の目標を定め、2020年に4000万人、消費額8兆円と、5年間で倍増させる目標を決めた。デビッド・アトキンソン氏が「新・観光立国論」で提唱した2030年までに8200万人の招致が可能、とまでは行かないが、大幅な伸びを期待する目標設定である▼しかし、民泊の規制緩和や宿泊を伴わないクルーズ船を増やすことで受入れ客数を伸ばしても、一人当たりの消費額の増加は余り望めない。世界のGDPに占める観光業の割合は9%だが、日本はまだ2%程度の貢献度だという。観光立国で大切なのは経済効果である▼お金をたくさん落としてもらうには、富裕層向けのPRとインフラの整備、長期滞在型旅行を増やす工夫、高額でも日本でしか買えないユニークな商品や土産品の開発、日本でしか体験できない貴重な祭りや芸能の普及など、総花的ではなくターゲットを絞り込んだマーケティングの工夫が不可欠である。(北村)

NPO法人
107

JAPAN NOW

Non-Profit Organization
JAPAN NOW Tourism Information Association. 観光情報協会

東京都知事が認証した「都市・環境・観光NPO」が発信する隔月刊情報

第107号 発行日2016年 6月 13日

Contents

JN協会総会開催	1
4月の訪日外客数は前年同期比で18%増	1
エジプト観光 - その価値と現状と展望	2
新理事・監事選出	2
新しいまちづくり「都市観光」⑦	3
COLUMN「一物二価」	3
城下町と観光・茨城県下館城 / NEW SPOT京都鉄道博	4
マーク・トウェインの本名と生い立ち / 一徳総活躍	5
霞が関通信 / 月極定額乗り放題サービス	6
北ドイツ事情(4)旅行より大切な我が家	7
長雨の季節到来 / 編集後記	8



《明治神宮御苑の花菖蒲》写真:堀り
明治26年、明治天皇の思召により昭憲皇太后のために植えられた。現在150種1500株が都会の真ん中で目を惹きつけてくれる。

JN協会第15回通常総会開催

吉村作治氏が記念講演
「エジプト観光」- その価値と現状と展望 -



NPO法人「JAPAN NOW 観光情報協会」(大島 慎子理事長)は5月30日(月)、東京

麹町の海事センターで第15回通常総会を開き、平成27年度の事業報告と収支決算を承認し、28年度の事業計画と予算を決めた。総会の冒頭、大島理事長が挨拶し、「今期は当協会事務局が創立以来の代々木から西新宿の小田急第一生命ビルに移転した。環境も良くなり、利便性も高まったので、「城と観光」フォーラムなど新しい企画にも取り組んで行きたい」と述べた。28年度の事業計画では、会員各位の協力により、個人、団体会員の増加に取り組み、情報紙「JAPAN NOW」の紙面充実とホームページの拡充をより一層進めるとともに、従来同様、各地での講演会を随時開催する。現在、10月12日には中部地区で観光立国フォーラムが予定されている。又、多彩な講師による観光立国セミナーも月一度の頻度で開催する。総会終了後は、エジプト考古学者で、早稲田大学名誉教授、東日本国際大学学長の吉村作治氏による「エジプト観光 - その価値と現状と展望」と題する講演を行った。(その概要は2面に掲載)講演会の後、懇親会に移り、講師の吉村作治氏を囲んで、意見交換を行った。

「JN協会大島理事長が田村観光庁長官と対談」
対談記事は JN協会ホームページをご覧ください

4月の訪日外客数は前年同期比で18%増!

単月では208万2千人で過去最高を記録も
伸び率は今年最低 熊本地震の影響か?

JNTO(日本政府観光局)の発表によると、2016年4月の訪日外客数は、前年同期比18.0%増の208万2千人で、3月に続いて2ヶ月連続で200万人を超え、過去最高を記録した。これまでの単月過去最高は2016年3月の201万人である。4月14日に発生し、以降余震が続いている「平成28年熊本地震」の影響で韓国からの訪日旅行者が伸び悩んだ。特に地震のあった九州地区では、韓国からの旅行者が前年同月比で3割強減った。九州への外国人旅行者のうち、韓国からは3分の1を占め、減少の影響は大きい。

4月は、継続的な訪日旅行プロモーションや、航空路線の拡大、クルーズ船の寄航増加などのほか、近年ブーム化している桜シーズンによる訪日旅行需要の高まりが訪日旅行者数の増加を後押ししている。市場別では、中国は、4月の前年同月比26.9%増の514,900人で、2016年1月~4月の平均伸率の49.5%より、増加幅はやや抑えられたが、引き続き高い成長を維持している。韓国は月後半に、九州地区での「熊本地震」の影響があったものの、前年同月比16.1%増の35万4千人と昨年同月を上回り、1月からの累計でも38.4%となった。他の市場では、台湾、タイ、インドネシア、フィリピン、ベトナム、インド、フランスが単月として過去最高を記録した他、ロシアを除く12市場が4月として過去最高を記録した。5月は、桜シーズンと夏休みによる需要の狭間となる中、クルーズシーズンの始まりなどが、訪日旅行需要の増加に寄与すると期待されている。

「エジプト観光」—その価値と現状と展望—

エジプト考古学者 吉村 作治氏



吉村氏は1943年東京生まれ。早田大学名誉教授。工学博士(早稲田大学)。東日本国際大学学長。エジプト考古学者。1966年アジア初のエジプト調査隊を組織し、約半世紀にわたり発掘調査を継続。古代エジプト最古の大型木造船「第2の太陽の船」を発掘・復原するプロジェクトにおいて、部材の取り上げ、サンプリングに成功し、本格的に修復・復原作業が進行中。またeラーニングによる新しい教育システムの制作と普及、日本の祭りのアーカイブに奮闘中。(公式HP「吉村作治のエジプトピア」<http://www.egypt.co.jp>)講演内容は多岐にわたり概要を纏めるのは簡単ではないが、要約してお伝えする。(編集部)

エジプト観光は最悪期を脱し回復基調

2か月に1度の割合でエジプトへ行っており、今回も一昨日帰国したばかりである。昨年、半月板を損傷し、7か月半の間車椅子生活を余儀なくされたが、車椅子でエジプトを訪ねた。今年には1966年に初めてエジプトで調査を行ってから50年目になる。最悪期にはエジプトへの観光客は600~800万人であったが、4年前の革命、その後のクーデター騒動で観光客は激減し、30万人程度になってしまった。今年3月に訪問した際は余り感じなかったが、今回はホテルの朝食時に、中国、中南米、カザフスタンの人たちがたくさん来ており、明らかに回復基調になってきている。そんな中で日本からの観光客はまだ戻っておらず、観光大臣からどうすれば戻るか、質問を受けた。ISが活動しているのでは?反政府運動が継続しているのでは?テロが頻発しているの

任期満了に伴う新理事・監事選出

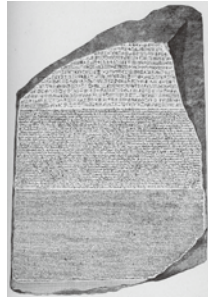
理事・監事の任期満了に伴い、5月30日の定時総会において下記の方がそれぞれ選出されました。

- 理事(29名)** — 大島 慎子 岡村 進 横山 善太 須田 寛 加納 隆 寺前 秀一 分家 静男 阿部 和義
河村 清信 堤 りり 山田 早苗 利光 國夫 片山 文彦 近藤 節夫 長尾 亜夫
北村 嵩 杉 行夫 澤田 利彦 梅原 利之 岩田 弘三 今井 智康 前 隆 河西 宏和
角 廣志 望月 義人 大西 啓義 高橋 俊朗 辛嶋 保馬 吉田 敏夫
- 監事(2名)** — 満田 潤子 山岡 弘幸

では?など不安感を持つ日本人が多い。これら風評被害を気にせず、ただ安全だとPRするだけでなく、安心感を広める努力が必要であるとアドバイスした。

エジプト観光の価値

エジプトにはツタンカーメンやクレオパトラ、ギザのピラミッド、アブ・シンベル神殿、ルクソールのカルナック神殿など有名な人や遺跡が数多く存在する。世界最初の「世界遺産」はアブ・シンベル神殿である。アスワンハイダムの建設で、湖底に沈む神殿を何とか保存しようと、世界中から基金を集め、神殿を分解して、数十メートル上の現在の場所に移設したことがきっかけで「世界遺産」が誕生したのである。又、エジプトは、ヒエログリフという文字を持ち、文字資料が多数残されている。ヒエログリフは1798年、フランスのナポレオンがエジプト遠征で発見した「ロゼッタ・ストーン」を、1822年にフランスのシャンポリオンが解読に成功し、現在では95%くらいが解読可能である。エジプト人は最初に死後の世界“あの世”という概念を考え出した文明で、“あの世”には神が住み、“この世”は人間が住む。神は永遠に生き、神殿に祭られる。人間は、“この世”で罪を犯さなければ、再生復活が可能であると考えた。



ロゼッタ・ストーン

進行中の発掘と主要観光施設をスライドで紹介

現在進行中の4か所の発掘場所、ギザのピラミッド脇で発掘中の「第2の太陽の船」、ラムセス2世が作らせた葬祭殿、未盗掘の墓とミイラの発掘現場などがスライドで紹介された後、主神アメンをはじめ1000体の神々の像が祭られているルクソールのカルナック神殿やアブ・シンベル神殿の様子を解説された。

最後に質疑応答があり、講演終了後の意見交換会でも活発な意見が交わされた。

北ドイツ事情(4) 旅行より大切な我が家

元日本航空副社長 横山 善太

1980年代前半、ドイツ(西独)GNPO成長の年代でありました。経済が停滞する中での消費者マインドを調査致しましたところ、最も節約出来難いものの順は次の通りでありました。

- ①家に関する費用(建築、修理、家具、設備等)
 - ②友人訪問等社交に関する費用(手土産は花です)
 - ③旅行
 - ④自動車関連費用
 - ⑤スポーツ
 - ⑥外食等食品関係
 - ⑦衣類ファッション等
- マーケットリサーチの目的は、本来旅行好きのドイツ人を促す為にとの思いであったのですが、反応は期待した通りではありませんでした。勿論、旅行需要は根強いのですが、生活そのものである住宅に関して執着が強いことが際立つ結果となりました。むしろ意外なことに友人訪問等社交が生活必需行動として取り上げられています。パーティー費用は質素ですから左程の出費ではなく、むしろ贈りもの手土産は花と決まっています。ドイツの花市場は一兆円超え欧州最大の消費国です。

さて、住宅に関する事項は数多くありますが、代表的な例を紹介いたしますが、ドイツ固有に限らず北欧全体の歴史でもあります。住宅一般は半地下、1階、2階、3~4階(又は屋根裏)となります。この地上階は半地下(倉庫、ボイラー室、洗濯場、ガレージ等々)の上ですから日本の1階より高くなります。この工夫の優れているところは、窓にカーテンが引いてなくても、採光を取り入れる為に全面硝子にしても通行人の視線は家の中の天井しか見えません。

高さが家の内外の自然な境目の役割を果たしています。ドイツ得意の「窓辺に花」を外から眺めても室内を覗き見られることはなく、室内からの外の眺めは良いことになります。

一方採光一般は、左程強い関心ではなく室内は日本より暗い方が好まれる様です。日本程南向きを選好しない状況に有ります。想像するに瞳孔を囲む虹彩が茶褐色の日本人



Photo: google streetview

に比べ青眼は薄く弱い、八帖間に100Wを光々と照らす生活は眩しく苦手なのです。会社でも事務室は明るくなく、又ホテルも元々室内は薄暗い方が落ち着く仕立てになっており採光には電気スタンドで対応しています。フェルメールの窓辺で少女に手紙を読ませている絵は室内が明るくては絵になりませんよね。

家の工夫はまだありますが頬笑ましい話を紹介致します。ハンブルクの花飾街窓通りで客人を待つ娼婦達は、街頭で客人を呼び込むには寒いので室内に鎮座しサイドミラーで通行人の様子を品定めし、例えばカシミヤの外套の紳士でも映る戸口に出てお迎えする仕掛けが工夫されています。

トーマス・マンの小説のある場面で、リュベックの主人公宅で2階の窓辺から子供達が客人を待ち侘び眺めているくだりが有りますが、これもサイドミラーなのでしよう、工夫が好きな国柄です。道具類(例えば蜂蜜用スプーン、大きなシーツのアイロン器、窓のカーテンの重し等々)、興味有るものがいろいろ有りますが誌面のことも有り、以上の御紹介で締め切りと致します。

観光立国セミナー

会場:海事センター

「ブラジルに渡ったドキュメンタリー屋さん」 岡村 淳 氏
— 南極を科学する — 記録映像作家元「すばらしい世界旅行」第121回(4月22日) 番組ディレクター

前半、早稲田大学で考古学を学んだ後、「日本映像記録センター」へ入社され、牛山純一代表からドキュメンタリー作成の基本を厳しく叩き込まれたエピソードや、中南米、特にアマゾン川流域の取材中での知られざる多くのエピソードが紹介された。

ブラジルの自然や文化に魅了され、1987年フリーとなって同国に移住して現在に至る。中盤では、自身が制作、撮影され、1996年に東京メトロポリタンTVで放映された「60年目の東京物語・ブラジル移民女性の里帰り」が上映された。80歳の未亡人が60年ぶりに日本に里帰りし、年老いた姉との再会、富山で出稼ぎをしている娘を訪ね、生き別れた義母の消息を尋ねる約40分弱の旅のドキュメントである。

上映後は観光の話題が中心で、長く日本を離れていた日本人や日系人、外国人が日本で感じる違和感や面白い点、ブラジルの生活や知られていない地域や自然、そこに生息する珍しい生き物などの話が続き、フロアとの質疑応答へ。

「白い大陸への挑戦」—南極を科学する— 神沼 克伊 氏
第122回(5月11日) 国立極地研究所名誉教授

同じ極地でも北極と南極では大きな違いがある。北極は海で厚い氷の下に海水があるが、南極は大陸で上に2000mを超す氷塊に覆われている。平均気温は南極の方が20度ほど低い。古来から、南の未知の陸地の存在は想像されていたが、19世紀初めになって捕鯨船やアザラシ狩猟船により南極大陸が視認され、上陸された。20世紀初頭には南極点目指した探検の時代となり、アムンゼン(ノルウェー)スコット(イギリス)日本の白瀬隊などが相次いで南極探検を実施し南極英雄時代であった。1957~8年に国際地球観測年(IGY)が開催され、南極観測がIGYの重要観測項目となった。日本は南極観測に参加し1957年に「昭和基地」を建設、観測を開始し、以後今日まで50年間(4年間中断)観測が継続され多くの成果を得て、そのデータは人類共通の知的財産として貢献している。南極条約が発効され、南極は平和目的のみ活用し、領土権の主張は凍結された。又、南極条約議定書が採択され、資源及び環境の保護がなされている。南極観光は1960年から開始され、1990年には約1万人(日本人2~300人)、21世紀に入り1万5千人~3万人ほどが参加している。南極半島付近に上陸するツアーの他、船で南極大陸周遊やロス島を見物するもの、航空機で南極点や日帰り飛行するものなどのタイプがある。

霞が関通信

グローバル X ペイカード 社長



よしもと ますお
吉本 万寿夫 氏

金沢市出身。74年4月日本ユニバック(現日本ユニシス)、81年7月デジタル・リサーチ・ジャパン(現ノベル)。86年3月エムピー・テクノロジ設立。14年グローバル X ペイカード設立社長。52歳。

■ 面白い名前ですが、何をしていますか

私は情報通信の仕事をしてきました。そうした仕事の環として会社を作りました。仮想通貨もそうですが、いろいろな新しい通貨が増えています。日本に中国人観光客が増えてきていますが、その人たちが日本で支払う手段がクレジットカードだけでなく、一番多いのは銀聯カードが使われています。中国人民銀行など50以上の銀行が発行しています。このカードはデビットカードと言って、一定の預金を積まなくては使えません。今のカードは50億枚使われています。このカードで日本の隅々で使えるようにするのが私たちの会社の仕事です。東京などの有名店では使えるようになってますが、地方ではこのカードは使えないことが多いです。加盟店をいかに増やしてゆくかが、中国観光客を増やしてゆくことでもあります。

■ 具体的に地方で銀聯カードを使えるようにしてゆく手段は何ですか？

なんとといっても中国観光客を地方に行ってもらわないといけません。東京、京都、箱根と言った定番の観光ルートでないところを開発しなくてはなりません。地方の人たちに中国人が日本で何を求めているか、勉強してもらいませんと進みません。中国語の勉強だけでなく文化、習慣などを知らないといろいろな誤解が生じます。そうした誤解を防ぐために私たち会社は E ラーニングを作りました。これを2か月学んでもらえれば中国の観光客とのトラブルは防げると思います。

■ 中国からの観光客が増えるのは良いのですが各地でいろいろなトラブルが出ていますね。

中国の文化風俗を知るのが第一でしょうね。京都の魚市場で魚を手で触ります。ごみ箱も平気です。こうしたことは中国では普通のことです。こうした中国の人の文化・風俗を理解するためのツールを用意しました。ホテルや旅館などの従業員に使えると思います。また、中国語の正しい使い方も入れてあります。観光庁などが作っている中国語の標識も違っているのも多いです。こうしたこともこれからは直してゆかないと日本の恥ですね。

■ 現在約400万人の中国からの観光客ですが、増えてゆきますか？

観光は政治に左右されます。平和産業です。中国との関係が良ければ、増えるでしょうが、何か尖閣諸島のような問題が出るとあつという間に減ってしまいます。

政治家の人たちは観光は平和へのパスポートと言うことを忘れないでほしいですね。

経済ジャーナリスト 阿部 和義



月極定額乗り放題サービス

観光学博士 寺前秀一

月極定額乗り放題制は、携帯電話やプロバイダーが月極定額で使い放題なら、飛行機の代金も月払いにしてはどうだろうかという発想である。アメリカン航空は1980年代はじめ、生涯にわたってファーストクラスを無制限に利用できる25万ドルのパスを発売した。ジェットブルー航空も2009年に乗り放題パスを売り出したことがあるが、今度ONEGOが売り出したのは、2950ドルの月額料金を払えば、米国の大手航空会社7社の飛行機が乗り放題となるサービスである。米国のすべての大都市をカバーしている。キャリアではなく、サードパーティとして販売するところがこれまでと違う。その目的は閑散期に売れ残ってしまう可能性のある座席を埋めるとともに、観光旅行者の評判を高めることにあり、ネット社会の旅行会社の生きる道でもある。

日本で高齢者向けのジェロントタクシー・乗り放題旅行商品を提案している間に、アメリカではさらに深化した航空機の乗り放題サービスを発売したのである。このスピード感の差に社会の違いを考えさせられるが、日本も乗り放題を可能とするマルチ・パッケージ・ツアー約款ができたのであるから、新しい商品を開発してもらいたいものである。

定額乗り放題の魅力は、価格調査や購入手続きといった要素をなくすことで、ユーザーは自分がどこに行く必要があるのかだけを考えれば済むようになることにある。ネットを使用して自分で旅行を計画し、航空券から現地のランドまで手配するとなると、かなり時間がかかる。季節、曜日で変化する料金やダイヤ等に振り回されるから、海外旅行を計画する場合、最後には疲労困憊することとなる。早割商品は払戻不可、変更不可だから神経をすり減らす。



Photo: Joseph Plotz

航空は、セキュリティ、気象条件等不安定要素が多く、代替手段も考慮しないと安心できないから、乗り放題といっても限界がある。その点、タクシーのほうがはるかに商品形成は楽なはずであるが、進展しないのは、ドライバーの歩合制賃金が採用されているからなのであろう。乗り放題タクシーがある観光地であれば、明日にでも旅行したくなるのであるが、残念である。

新しいまちづくり「都市観光」⑦

JR東海相談役 須田 寛

「都市(まち)観光」とは都市(まち)そのものもつ特色、そこに集積された独自の文化とくらし、まちのいとなみにふれるとともに観光客と市民との交流を通じてまちづくりの原点、都市の文化にふれる観光をいう。

(事例-2)(釜) 工業都市の場合

(1) ノコギリ屋根工場遺構による観光まちづくり
(群馬県、桐生)

桐生は明治以来繊維工業都市として発展してきた歴史をもつ。この繊維産業には外国の例を取入れた独特のノコギリ型屋根のある工場が多数建設され桐生市の景観を永年にわたり形成してきた。現在も約200棟余が保存されている。この伝統的工場建物群を再活用し観光資源化して、桐生を観光都市として再活性化すべくまちぐるみの取組みが始まった。商工会議所による「ファッションタウン桐生のまちづくり」がそれである。

市民参加の協議会によってまちをあげてこの施策は推進された。ノコギリ屋根は工場建物にして現用のものも含み内部を改修して店舗、アトリエ、工房、博物館、ブティック、飲食店等様々な業種が入居した。そして工場として残るものも工場見学等を可能にし、どのノコギリ屋根建物にも人々が気軽に出入りできるようにし、それらを廻る観光ルート・ツアーも実現した。この建物のひとつは中核施設として「有隣館」と命名されイベントホール文化教室を設けて市民と観光客のふれあいの場となりまちの観光センターとしての役割も果たしている。

古いこぎり屋根の建物を活用して、ここに桐生の新しい文化を集結再構築し、新しい観光まちづくりに市民をあげての努力が結実して桐生には産業観光都市として多くの観光客が訪れている。

COLUMN 「一物二価」の週刊誌

ふらっと入った書店で週刊誌を買い求めた。「定価400円」だったので、百円硬貨4枚を支払ったところ、何と1円のお釣りをくれたのである。不審そうな私に対して店主曰く、「本体価格370円に、8%の消費税29.6円を加えて399.6円ですが、消費税は1円未満を切り捨てるので29円となり、販売価格は399円となります」と涼しい顔で至極明快な解説をしてくれた。手にしたレシートを改めて見てみると「週刊誌399円(うち消費税29円)」とプリントされていた。しかし、それなら最初から表紙に「定価399円」とはっきり表示すべきではないのかと些か腑に落ちなかった。そこで、試して他の書店で同じ週刊誌を買ってみたところ、そこでは1円のお釣りをくれなかった。レシートを見ると「週刊誌400円(うち消費税30円)」と堂々印字されていた。399円で販売した書店は、正直過ぎるのだろうか。或いは、400円で定価販売した書店は消費税を口実に少しでも儲けよう考えたのだろうか。納得し難い「一物二価」に出食わして、はたと考え込んでしまった。

(2) せとものまち瀬戸の観光まちづくり(愛知県瀬戸)

瀬戸市は「せともの」の名で知られる窯業都市として古い歴史をもつ市である。平成17年瀬戸・長久手市を中心に万国博覧会が開かれ世界各地から2,200万人の来場者があった。万国博を動機に瀬戸市は古いまちなみも保存しつつ新しい観光まちづくりに取組んだ。

まず、瀬戸駅前の中核施設「瀬戸蔵」を建設した。館内には瀬戸の発展を支えてきた(陶器横出しに活躍した)旧型電車の実物展示をメインに、瀬戸の窯業を中心とする各種資料を収集展示すると共に陶器の製作体験もできる学習体験観光施設とした。

イベントホール、陶磁器教室などもそなえ、観光客と住民のふれあいの場ともなった瀬戸蔵を中心として駅前一帯の永遠まちなみを改造し、道路もここから市内の窯元等を直結した。駅前一帯は陶都瀬戸の玄関として景観を一変したのである。

万国博を動機として内外からの観光客も多くなり隣接の岐阜県東濃地域(多治見、土岐、瑞浪市等)とも連携して幅広い産業観光都市圏づくりも実現した。

(事例-3) 都市(夜景)観光の展開(四日市、函館、川崎等)

都市観光に新しいページを加える観光がはじまった。「夜景観光」がそれである。都市の姿は昼と夜とで別の顔を見せる。そこで都市夜景が注目されるようになった。

それは次の理由による。第一は都市周囲の山に自動車道路が普及し夜でも登山が簡単になり、山頂からの都市夜景のすばらしさが実感できるようになったこと。

第二は公害防止が進んで都市の臨海部の海面が浄化され船による海上からの見学が可能になったために海上からの都市景観就中川崎、横浜などの夜景が味わえるようになったことによる。工場、室蘭、北九州などの海上からの工場夜景は広く紹介される都市景観となり、神戸、函館等ほか、岐阜等道路の整備された都市の山頂からの展望等も新しい観光資源になり、各地で都市観光を文字通り「24時間観光」にしつつある。

定価400円の週刊誌が、書店によっては現実に異なる消費税を適用して2通りの価格399円と400円で売られている。どうして同じ週刊誌なのに、こんな「一物二価」が生まれたのだろうか。こうなると1円のお釣りをもらえるか、もらえないかは書店の裁量次第だ。雑誌社が価格を399円と表示し、書店が表示価格通り販売すればまったく問題ない。それでいながら雑誌社は親切心から書店の手間を省いてやろうとしたのか、はたまた1円でも多く儲けさせてやろうと深情けしたのか、399円を安易に切りがいい400円に切り上げたことが問題をややこしくした。雑誌自体はいくらに価格を設定しよう構わないが、400円では雑誌社が書店の儲けに余計な手を貸していることにならないか。

初めて「一物一価」の法則を学んでから大分時が経つが、これだけ価格が堂々と表示されれば、間違いないそれは「一物一価」だと信じていた。それが書店によっては同じ価格表示でも、「一物一価」ならぬ「一物二価」、「399円」と「400円」がまかり通っていたとは・・・。びっくりぼんである。 エッセイスト 近藤 節夫

城下町と観光 49 (茨城県・筑西市 下館城・下館藩)

水谷勝氏が築く
勝俊が3万1千石で立藩

ジャーナリスト
長宗我部友親

下館は藤原秀郷が平将門を追討するために築いた三館(上館、中館、下館)の一つといわれ、要害の地である。

上館にはかつて久下田城があって、関八州にその名をとどろかせた水谷正村(幡竜齋)が築城した。中館は現在の伊佐城跡のあたりにある。

下館城は、水谷伊勢守勝氏(みずのや・いせのかみ・かつうじ)が、文明10年(1487年)に築城を始めて、孫の勝之の代になって完成したといわれる。

水谷氏は、藤原秀郷の一族で、その七代裔孫の勝俊が天正18年(1590年)秀吉の小田原攻めに加わり、慶長5年(1600年)の関ヶ原の戦いでも活躍したことによって下館3万1千石を徳川家康によって安堵された。

徳川時代には、寛永16年(1639年)に水谷勝隆が備中国成羽藩に転封となり、下館城には松平頼重が入る。そして、松平家の重隆が再転封した後は一時天領となった。

しかし、その後、黒田直邦などの支配を経て、石川茂が2万石で下館に入封し、石川氏が9代にわたって下館を治める。



【下館城跡】下館城は濠を三重にめぐらし、別名螺城または法螺貝城と称した。

明治維新を迎えて、下館は廃城となった。

また、下館市は2005年に明野町などと合併して、現在は筑西市となっている。

下館城の周辺は、現在筑西市立下館小学校や住宅などが建って、下館城の遺構をはっきりとはとどめてはいない。本丸があったところには八幡神社が残っていて、城跡についての説明板が置かれている。下館城跡としては、堀の一部が認識できる。

下館城は、別名法螺貝城とも呼ばれた。

NEW SPOT in Japan 56

京都鉄道博

鉄道百年の歴史を刻む旧梅小路機関区(京都市下京区)に4月末、JR西日本が京都鉄道博物館をオープンした。昨夏閉館した梅小路蒸気機関車(SL)館を拡張する形で本館を新設しSL20両を含む53両の車両を展示する。一昨年閉館した大阪の交通科学博物館から東海道新幹線0系第1号車両などを運び、国鉄最大のSL・C62形や、時速300km/h運行を実現した500系新幹線、寝台特急トワイライトエクスプレスなどの車両をそろえた。産業文化財として動態保存するSLと扇形車庫、車両を方向転換する転車台や、毎日運行するSL、列車運転の体験コーナーも人気だ。初めて鉄道に乗った日本人ジョン万次郎の紹介など歴史展示も興味がわく。

京都鉄道博は敷地にマイカーなどの駐車場が無い。市制定の「歩くまち・京都」憲章に賛同し、鉄道の町にふさわしく、人にやさしい公共交通優先の利用をアピールする。歴史の町・京都は鉄道の町でもある。新幹線、在来線、SL、メトロ、私鉄、ケーブルカー、トロリー列車など多種多様な鉄道が実際に市内を走る生きた博物館の町だ。琵琶湖疎水の船を運ぶ鉄路インクラインの遺跡もある。路面電車発祥の地で1895(明



京都鉄道博物館本館と旧二条駅舎(左端)

治28)年に京都駅近くの七条から伏見まで運転した。市電は廃止になったが嵯峨野方面を走る私鉄・嵐電の一部路線に路面電車は健在だ。

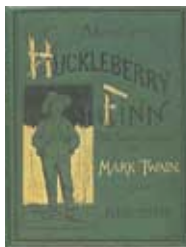
全国100館以上もある鉄道展示でJR東日本の鉄道博物館(さいたま市)、JR東海のリニア・鉄道館(名古屋市)に京都が加わり展示規模トップ3となった。赤字路線や寝台特急廃止など「悲報」が続く中、九州鉄道記念館(北九州市)や碓氷峠鉄道文化むら(群馬県安中市)、地下鉄博物館(東京都江戸川区)、貨物鉄道博物館(三重県いなべ市)、津山まなびの鉄道館(岡山県津山市)など各地の鉄博も賑わう。

文・写真 林 莊祐

アメリカごぼれ話 43 「マーク・トウェインの本名と生い立ち」



元JTB取締役 北村 嵩



「トム・ソーヤの冒険」や「ハuckleberry・フィンの冒険」の著者がマーク・トウェインであることは誰でも知っている。しかし、その本名や生い立ちについては意外に知られていない。「マーク・トウェイン」とは「水深二尋!」と船員が安全水域を知らせる時にかかる掛け声である。ミシシッピー川

の水先案内人(パイロット)の経験がある作家が、使用したペンネームである。

その作家の本名はサミュエル・クレメンズと言う。ヴァージニア州から移住してきた開拓者の息子としてミズーリー州で生まれ、4歳から同州のハンニバルというミシシッピー川沿いの小さな港町で育った。この町での少年時代の生活が、後のトム・ソーヤやハuckleberryの活躍に活かされている。父を亡くしたサム(サミュエル)は12歳から印刷工見習いとして働き始めた。10歳年上の兄オライオン・クレメンズが経営していた印刷所が発行する週間新聞を手伝いながら時々記事を書いて文章修行をした。18歳で独立したサムはセントルイスから東部のニューヨーク、フィラデルフィア、ワシントンなどで渡り印刷職人として働きつつ、見物をして故郷に戻った。町の近くを流れるミシシッピー川は、アメリカ大陸の中央部を南北に貫く大河である。



1850年代に運行されていた蒸気船

当時は交通の大動脈として蒸気船の運航が最盛期であった。サムも、当時の人々の憧れの職業であった水先案内人になることを目指し、免許を取得した。華やかな蒸気船での生活を送り、船上で賭博師、ペテン師、ごそ泥、南部紳士など、後の小説の登場人物の素材となった様々な人物と出会った。しかし2年後に、南北戦争が勃発し蒸気船の運航が難しくなり、失業してしまった。

奴隷州であったミズーリーで育ったせい、軽い気持ちで南軍の義勇軍に参加したが2週間で脱退する。ちょうどその時に、ネヴァダ準州の政務長官(セクレタリー)に任命され赴任する兄オライオンに同行して未開の西部に向かった。ほんの短い期間に見物をして帰郷するつもりであったが、当時のネヴァダは金銀の鉱脈が発見されてゴールドラッシュが起こっており、一攫千金を夢見たサムは探鉱に熱中する。しかし、ことごとく失敗して文無しとなり、土地の新聞「テリトリアル・エンタプライズ」の記者として雇われた。この時使用したのが「マーク・ト

ェイン」というペンネームであったのだ。ユーモアたっぷりのほら話(トールテール)を表現豊かな記事に仕立てて評判を呼び、サンフランシスコに出てユーモア・ジャーナリストとして活躍した。その後1867年に、経済成長を遂げ、金銭万能主義がはびこるニューヨークに進出して遊軍特派員として生活した。新聞社を説得して「ヨーロッパ見聞録」を寄稿して好評を得てマーク・トウェインの文名を全国に広めた。ジャーナリスト的な読み物が中心だったが、1873年に友人のチャールズ・ウォーナーと共著で小説らしい小説「金びかの時代」(ギルテッド・エイジ)という、時代の風潮を揶揄した本を書いて小説家としての道を歩むことになるが、投機に対する夢を抱き続けて失敗を重ねた。

一億総活躍

小田急電鉄(株)特別社友 利光 國夫

先頃安倍総理が我が国の目指すべき社会像として「一億総活躍社会」なる構想を打ち出した。私はこれに反対するとか、ケチをつける気はないのだが、その趣旨は分かるにしても、もうすこし適切な表現が出来ないものかと思う。私の世代にとって「一億……」という言葉は政治家やお役人が持ち出した時には、おおよろくなことが無い。



大東亜戦争の時には緒戦の勝利の名残りで未だ余り敗色濃厚になる前は「一億一心火の玉だ」と煽られ、戦局が悪化してくると「一億総特攻」、更には「一億玉砕」の覚悟が唱導される有り様となり、遂に敗戦となるや今度は「一億総懺悔」ときたのには小学生だった私でも呆れる外はなかった。

それはそれとして「活躍」など不可能な寝たきり老人や呆け老人(私もその予備軍?)の増大にどう対処していくのか、そもそも活躍などしてもらっては困るバカが沢山いるのだ。

ママから巨額の子供手当をもらいながら知らずにいるバカ総理、育児休暇を活用して不倫旅行に励む議員、企業でも出勤されては迷惑なだけのバカが重役や社員の中に結構沢山いるのである。

会員募集 都市の再生、観光振興、環境保全の市民活動に賛同する会員を募集しています。

●個人会員(1口5千円から) ●団体会員(1口5万円から)

お問い合わせ先 JAPAN NOW 観光情報協会
電話: 03-5989-0902 FAX: 03-5989-0903